

圓谷昂史¹・鈴木明彦²：北海道泊村堀株海岸におけるココヤシの漂着

Takafumi ENYA¹ and Akihiko SUZUKI² : Stranding record of *Cocos nucifera* L., on Horikappu beach of Tomari Village, Hokkaido

2020年11月1日、北海道日本海側に位置する古宇郡泊村堀株海岸でココヤシ *Cocos nucifera* L. を発見した。北海道におけるココヤシの漂着は、日本海沿岸や太平洋沿岸の各地で報告されている（例えば、中西 1999；石川 2007；志賀・伊藤 2008；圓谷・鈴木 2014；鈴木 2016；土屋 2016）。しかし、本地点におけるココヤシの漂着は、今回が初めてとなるのでここに報告する。

堀株海岸（北緯43°01'52”，東経140°31'30”）は、泊村の南部に位置する外洋性の砂浜海岸である（Fig. 1）。今回発見したココヤシは、汀線からやや内陸側で多数の人工物と共に打ち上がっていた。計測値は、長さ215mm、最大幅138mm、最小幅119mmであり、やや細長い形状を示す（Fig. 2）。外果皮の多くは剥落し、纖維状の中果皮が露出するものの、3本の稜を確認することができる。果皮には、殻長数mm程度のエボシガイ *Lepas anatifera* の幼体が多数付着しており、同サイズのヒメイガイ *Septifer keenae* の幼貝も確認される。一方、表面には直径1mm程度の穿孔痕が多数存在するものの、穿孔貝は認められなかった。なお、本試料には、人為的な切断面などは確認されない。

2005年以降、北海道各地では、南方系の果実や種子が多数発見されている（鈴木 2016）。海流散布植物の1つであるココヤシは、大型で比較的認知度が高く、一般人の目にもつきやすいため興味・関心を惹く素材となる。今後は、ココヤシを目印としつつ、海流散布植物の漂着記録の乏しい地域でも調査を行うことで、新たなデータの蓄積が望まれる。

謝辞：本研究では、日本学術振興会科学研究費（若手研究19K13427、基盤研究(C)19K03107）を使用した。

引用文献

- 圓谷昂史・鈴木明彦 2014. 北海道室蘭市トッカリショ海岸におけるココヤシの漂着. 漂着物学会誌 12: 58.
 石川慎也 2007. 北海道えりも町百人浜の漂着種子と果実. えりも研究 4: 9-12.
 中西弘樹 1999. 漂着物学入門 黒潮のメッセージを読む. 212pp. 平凡社, 東京.
 志賀健司・伊藤静孝 2008. 2007年に北海道石狩湾沿岸で見られた暖流系漂着物. 漂着物学会誌 6: 11-16.
 鈴木明彦 2016. 北海道の海辺を歩く ビーチコーミング学入門. 120pp. 中西出版, 北海道.
 土屋慶丞 2016. 銚路市知人浜に漂着したココヤシ. 漂着物学会誌 14: 49.

(Received Aug. 5, 2021; accepted Aug. 27, 2021)

¹〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道博物館

¹Hokkaido Museum, 53-2 Konopporo, Atsubetsu-cho, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0006, Japan

²〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1 北海道教育大学札幌校地学研究室

²Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, 5-3-1 Ainosato, Kita-ku, Sapporo 002-8502, Japan

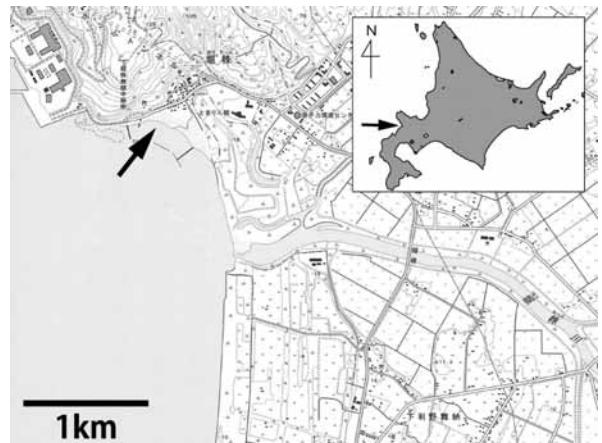


Fig.1 Map showing locality site of Horikappu beach, Tomari Village, Hokkaido.



Fig.2 *Cocos nucifera* L. stranded on Horikappu beach.